第59回横須賀市文化振興審議会　議事概要

日　時：平成26年7月30日（水）
16:00～17:20
場　所：市役所３階　会議室Ａ

出席者：秋岡委員、崎山委員、西堀委員、蛭田委員、廣瀬委員、
藤井委員、山本委員、吉田委員
欠席者：若江委員
傍聴者：なし
事務局：政策推進部文化振興課　小澤課長、福原係長、鈴木

- 冒頭、小澤課長より委員への挨拶があった。
- 当座の司会として小澤課長が開会を告げ、事務局（文化振興課）の担当を紹介した。
- 若江委員が欠席であるが、定足数を満たしている報告があった。

１　委員の紹介

新たな任期となったので、司会より委員の紹介を行った。

２　委員長及び委員長職務代理者の選出について

横須賀市文化振興審議会規則（以下、規則という）第３条第１項に基づき、委員長を委員の互選により推薦を諮ったところ、委員から吉田委員を引き続き推薦する旨の発言があり、異論はなく、吉田彩子委員を委員長とすることに決した。

規則第３条第２項により委員長が議長となり、委員長職務代理の選出について、規則第３条第３項に委員長が指名するとなっているので、委員長から山本委員を引き続き指名する旨発言があり、山本詔一委員の了承により決した。

３　文化振興基本計画の進捗状況について

事務局が、（資料１）文化振興基本計画推進専門分科会について、（資料２）文化行政推進会議設置規程、（資料３）文化振興基本計画専門分科会会員名簿、（資料４）平成25年度文化振興基本計画進行管理結果報告書（案）」について説明。

〇質疑応答

委　　員：・53ページの総括の１.文化の担い手の育成で、平成25年度の客体が当初に比べて100件ほどドラスティックに減っている。この理由は。

事 務 局：・文化振興課で主催しているイベントの参加者に対してアンケートを実施してきており、様々な部局で子どもを対象にして類似イベントが行われるようになったため、文化振興課主催イベントの実施件数

自体が減り、客体が減少している。子どもを対象にしてイベントについては、特定の部局だけでなくオール横須賀市として取り組んでいきたい。

委　　員：・文化振興課が主催する子供向けのイベントが減ったためアンケートの回答も減ったということか。

事 務 局：・その通りである。子ども向けのイベントについては主に夏休み期間に実施しているが、生涯学習センターや博物館、美術館などでも同様のイベントが実施されるようになったので、類似イベントを行っているものや、イベントの募集が過多にならないよう整理させていただいている。

委　　員：・アンケートの対象を文化振興課主催以外のイベントにも広げたらどうか。

事 務 局：・他部局のイベントでは様々な事情により協力が得られなかったこともあり、今後このようなアンケートを実施する際には、広く市民に向けたアンケートを活用することも検討したい。

委　　員：・53 ページの２．文化の次世代への継承で平成 20 年度には 2 回目以上の参加者の割合が非常に多かったが、その後は少ないのは応募者自体が減ってしまっているのか。

事 務 局：・平成 20 年度は非常に多くの子どもたちに参加いただいたイベントでアンケートを実施できたので、このような数字になっている。その後は比較的少人数のイベントを２から３回実施してきているといったイベントの質が変わっているためである。

委　　員：・53 ページからの総括のように６年分まとめてみると傾向がわかりやすい。今までもアンケートのやり方や目標設定などで問題があったとされているが、今後の対応は決まっているのか。

事 務 局：・今後、アンケートを実施する際には、全市的に実施するアンケートの活用を含めて、審議会でいただいた意見を踏まえて実施したい。新しい計画の進行管理では、計画で示した指標に対する評価を比較していくことを考えている。

委　　員：・53 ページからの総括での各アンケートでの評価について、未達成が非常に多い。

事 務 局：・アンケートにより判断する目標の設定が、前年度比で５％増というものだったので、単純に考えて５年間で 25％増となる厳しい目標値だった。また前年度比となると、前年度の数値により 5％増のハードルが高くなったり低くなったりするので不適切だった感もある。一度設定した目標なので事実として、そのまま掲載している。

委　　員：・23ページの横須賀ゆかりの人物紹介冊子の発行について、何度も増刷するほど好評であると感じる。アンケートではホームページの評価が芳しくなく発展途上と思われるが、それ以外の部分でのＰＲについては評価できるのではないか。この紹介冊子はホームページとは連動しているのか。

事務局：・４種類の紹介冊子を発行しており、ホームページでも同じものが閲覧可能である。

委　　員：・ホームページの評価が芳しくないと言われてきているが、アンケート自体が紙で行われているので、評価が悪くなるのではないか。
・アンケートからどのようにしていくのかをはっきりするべきと思う。ホームページを見てもらえていないから、まず見てもらうのか、見てもらえているから内容を満足いくものにするのかなどをはっきりすべきではないか。

事務局：・ホームページは見てもらわないと効果はないので、まずはいかにホームページにアクセスしてもらうかを考えていきたい。市のホームページからアクセスしやすいようにすることが考えられるが、情報量の多い市のホームページではなかなか難しい状況である。紙媒体にＱＲコードを掲載するなどアクセスしやすい対応を今後も考えていきたい。

委　　員：・ホームページはそれ自体を見ることが目的の人が多いので、そこから事業につながるかは難しい面もある。
・文化の伝承で様々な事業をしていることは評価するが、その多くが小学生が対象で、小学生が中学生になった途端、文化や芸術に触れる機会が少なくなってしまうことは問題である。

委　　員：・小学生、中学生の数がそもそも減ってきていることもある。その中で効果的にやるならば、学校教育の現場で子どもたちが何を求めているのかを把握することも必要であり、それを文化行政に活かしていくべきである。

委　　員：・小学校では郷土に関する副読本が配られて、その勉強もしていた。中学になると受験が見えてくるので郷土についての勉強がなくなる。

委　　員：・中学にも総合学習用に副読本を作ったがあまり活かされなかったようだ。

委　　員：・今の子どもたちはデジタルネイティブと言われ取扱説明書なしで電子機器を使える世代なので、ホームページをうまく活用していくことは必要と考える。

委　　員：・検索サイトで上位に表示される仕組みもあるので活用してみてはどうか。

委　　員：・ホームページについて論議されているが、一番見てもらえるのは各戸に配布される広報紙だと思う。広報紙に文化情報を掲載することは経費などで難しいのか。

事 務 局：・広報紙の作成・配布は基本的には毎月経費としては変わらないので紙面の都合ということになる。文化・芸術という情報は重要性としては高くならない現状がある。
・広報紙をよく見る年代は比較的高齢の方が多いと思う。若い世代に文化・芸術を継承する観点からも年代を意識した広報方法を考える必要はあると考える。

委　　員：・広報紙を見た年配の方から若い世代への情報の伝播というものも十分期待できると思うが。

委　　員：・親の世代が若年化していると思うので、子どもたちに広報紙を見て情報を伝えることはあまり期待できないのではないか。

委　　員：・孫とのやり取りはメールでということを聞く。高齢者のパソコン教室の動機は孫とメールしたいからというものが多いらしい。そうなると紙媒体の広報紙は高齢者と孫の情報交換ツールとしては活用されない可能性もある。

委　　員：・近代歴史遺産の事業での親子でのツアーには三世代での参加も含めて、たくさんの応募がありその多くが広報紙を見て参加している。

事 務 局：・近代歴史遺産の事業での親子でのツアーは小中学校にチラシを配布して広報に努めている。様々な広報手段を使うことが大事である。

委　　員：・子ども向けの広報紙はあるのか。

事 務 局：・子ども向けの広報紙は発行していないが、子育て世代向けに横須賀の魅力を伝える「すかりぶ」という事業を行っており、情報紙を発行したり、ホープページなどのデジタル媒体も駆使している。

委　　員：・46ページの市役所展示コーナーなどでの作品紹介が検討を行っただけで【Ａ】評価になっているのは【Ｂ】が適用ではないか。
・38ページの冊子「みつめよう横須賀100選」の紹介と冊子「表現された横須賀」の発行は現在行っていないので【Ｄ】評価ではないか。
・34ページの文化交流の取り組みで平成25年度に回数の記入がないのはなぜか。

事 務 局：・市役所展示コーナーなどでの作品紹介は事業実施の検討を行いスケジュール等の要因で実施できなかったので【Ａ】とした。
・冊子「みつめよう横須賀100選」の紹介と冊子「表現された横須賀」の発行は事業として実施済みと考え【Ａ】とした。
・ご指摘の評価や記載内容については再度精査することとする。

委　　員：・冊子「表現された横須賀」の発行はコンプリートされた内容ではないので継続して取り組む必要があると思う。

委　　員：・こういうコンテンツこそホームページで展開したらどうか。

事 務 局：・冊子「表現された横須賀」の発行については、どんなことができるか検討したい。

委　　員：・26ページの自然・人文科学の資料及び文化的遺産の収集管理保管について事務的な件数だけが記載されているが、展示会の開催などの自然・人文博物館の機能をベースにしてもっと具体的に事業として表現できないか。

委　　員：・自然・人文博物館は今年 60 周年を迎える貴重な存在である。もう少し丁寧に扱ってもいいのではないか。

事 務 局：・今後はそのような表現にも注意していきたい。

委　　員：・18ページの横須賀総合高等学校生徒と海外高校生との交流の推進が年々交流が少なくなっているが、何か理由はあるのか。

事 務 局：・状況を確認する。

委　　員：・同じ所で「相手校の希望により中止」という表現は不適切ではないか。

事 務 局：・適当な表現に訂正する。

委　　員：・横須賀市では「障がい者」という表記はしないのか。

事 務 局：・公式には使用はしていない。

4　その他

事務局から下記の事項が口頭で報告された。

・審議会資料及び議事録の市ホームページでの公開について
・市民文化資産「西来寺の梵鐘」の文化財指定について
・横須賀製鉄所（造船所）創設 150 周年について
・今年度の文化振興課関連事業について

・特に質問・ご意見等はなかった。

以　上